

「書道 I」	単位数	2 単 位
	学年・学級	1 学年書道選択クラス

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる。 2 書を楽しむ態度を通して感性を高め、自己を主体的に表現する能力と書の実しさを 感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。 3 書写能力の向上を図り、実用的な書への関心を持たせる。 4 書の伝統と文化についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	教育出版 新編 書道 I

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい
第1 学期	1 書道の学習を始めよう ・姿勢・執筆 ・用筆・運筆 ・筆脈 ・字形 ・用具用材	4	・用具・用材の特徴を理解し、適切に扱えるようにする。
	2 漢字仮名交じりの書の 学習（1） ・書道に親しむ ・書写からの発展 ・さまざまな表現	5	・「書写」と「書道」との関連と違いを理解する。 ・日常表記のままに素直に書いてみる。 ・毛筆による表現力、筆の機能を理解しながら筆の弾力・運筆のリズムを感じる。 ・それによりさまざまな表現ができることを理解する
	3 楷書の学習 ・さまざまな楷書 ・厳正と温雅 ・重厚と軽快 ・方勢と円勢 ・漢及黒伝の鑑賞と臨書 ※ 硬筆の練習	6	・各古典の線質，字形の違い，又それによる印象の違いを理解して書く。 ・学習した古典の中より1つ選び倣書作品を書く。 ・整齐の文字構成を覚える。
		7	
【第1学期の評価方法】 ・毎時間の課題作品1枚提出，授業態度，質問等による理解度，自己評価・PR，相互評価等により，総合的に評価する。			
第2 学期	4 行書の学習 ・さまざまな行書 ・行書の特徴 ・蘭亭序の鑑賞と臨書 ・争坐位稿の鑑賞と臨書 ・風信帖の鑑賞と臨書	9	・楷書と行書の相違，行書の特徴について理解する。 ・行書の基本点画・筆脈を理解する。 ・筆の機能を理解しながら行書の筆の呼吸を理解する。
		10	・字形，墨色，墨量等工夫しながら作品をつくる。特にニジミやかすれの表現を学ぶ ・書の多様な表現を理解するとともに個性の表出を実感させ書への親しみを深める。
	5 仮名の学習 ・仮名の成立と発達 ・仮名の種類 ・用具・用材の扱い方 ・基本的な筆使い ・平仮名 ・変体仮名 ・連綿 ・蓬菜切・高野切第三種の鑑賞と比較	11	・仮名の成立，字源について理解する。 ・仮名の基本的な筆使いを学ぶ。 ・行書き・散らし書き，構成法を理解する。
		12	
【第2学期の評価方法】 ・夏休みの課題，毎時間の課題作品1枚提出，授業態度，質問等による理解度，自己評価・PR，相互評価等により，総合的に評価する。			
第3	6 漢字仮名交じりの書の 学習（2）	1	・学習した古典の技法により漢字と仮名の調和を図り表現方法を工夫する。

学期	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉と表現 ・用具用材の工夫 ・文字の大きさ、全体の構成工夫 ・漢字仮名交じり書の創作 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・墨色、全体構成を工夫して書く。又言葉のイメージや自分の感性の表現を考え、より効果的表現方法を模索する。 ・色紙・ハガキ・団扇などに書く
		3	
【第3学期の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の課題作品1枚提出、授業態度、質問等による理解度、自己評価・PR、相互評価等により、総合的に評価する。 			
【年間の学習状況の評価方法】 下記の4つの観点から評価した1学期、2学期、3学期の成績を総合し、年間の学習成績とする。			

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見るのが大切である。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かおう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といった様々な要素について考え分析する姿勢が大切である。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切である。 ・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具などを積極的に選択していこう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めるので、用具を準備し着席を完了させること。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使うこと。特に、筆と硯はきれいに洗うこと。 ・作品ファイルはきちんと整理すること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書を通して、書写能力を高め、生活に即した書表現に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 ・漢字の書を通して、書の美しさに関心を持ち、意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 ・仮名の書を通して、日本の伝統的な書の美に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 ・鑑賞活動を通して、書を愛好し日常生活における書への関心を高め、意欲的、主体的にその美しさを味わおうとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の仕方や態度 ・毎時間の課題の提出状況 ・提出作品 ・自己評価・PR
芸術的な感受や表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を豊かにし、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・質問等による理解度
創造的な表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書を通して自己を主体的に表現する能力を伸ばし、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けているか ・漢字の書を通して、自己を主体的に表現する能力を伸ばし、基礎的な技能を身に付けているか。 ・仮名の書を表現するために必要な仮名の線の特徴を理解し、基礎的な技能を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・相互評価
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・相互評価

3 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の目標の一つとしている。練習する古典や題材とする語句など多くの場面で「自分で選ぶ」ことになる。自分を最高に生かせる選択をしていてもらいたい。 ・「何が出来ているか」より「何が出来るようになったか」を大切にしたい。1時間の中での進歩、単元を通しての進歩、学期を通しての進歩、そして、1年間の学習を通しての進歩が感じられるような学習への取り組みを期待する。 ・書道Iの学習を通して、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになることを希望する。
--